

タバコの収量構成に及ぼす収穫葉数の影響

第1報 単位面積当たり収穫葉数と収量

内村新吉・川上嘉通

(日本専売公社鹿児島たばこ試験場)

UCHIMURA, S. and KAWAKAMI, Y.

Effect of the Numbers of Priming Leaves on Yield of Tobacco

(I) The Relation between the numbers of priming leaves and yield per are

まえがき

前報で栽植密度を増加すれば、単位面積当たりの収量は増加することを、タバコ個体群の生産構造という生態的見地から検討を加えた。しかし栽植密度と収穫葉数を変えて、単位面積当たりの収穫葉数を一定にした場合の収量構成におよぼす影響については明確でない。そこで本年度これが検討を行つたのでその概要を報告する。

試験方法

供試品種はブライトエローを用い、移植は3月17日、標準施肥量を単位面積当たり一定にし、トンネル(巾60cmポリ)被覆栽培とした。5月19回各区一斉に摘心と同時に葉数設定を行い、以後は標準収穫乾燥によつた。摘心は開花一輪時、収穫開始は5月27日、移植から収穫終了の7月6日まで111日であつた。その試験設計は第1表のとおりである。

第1表 試験設計
A 4230枚をとる場合(1aから)

区別	収穫葉数	栽植本数	畦株間距離
区1	枚20	本211	cm cm 106×45.3
2	18	235	106×40.0
3	16	264	106×35.1

B 5652枚をとる場合(1aから)

区別	収穫葉数	栽植本数	畦株間距離
区4	枚20	本283	cm cm 106×33.8
5	18	314	106×30.0
6	16	353	106×26.3

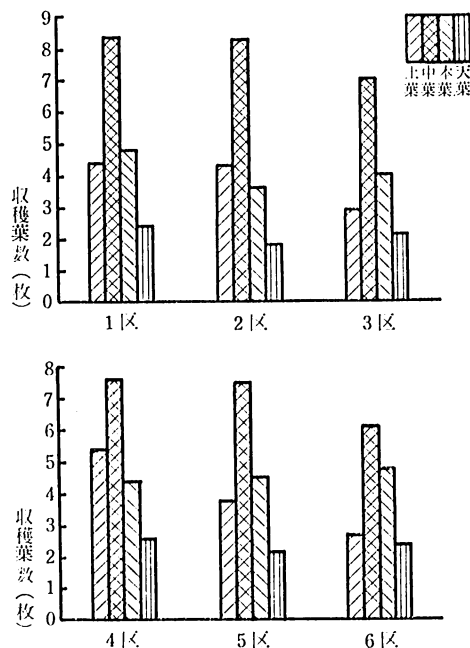
注) 収穫葉数20枚の区は第1花枝とも2枚、18枚は3枚、16枚は4枚で摘心を行い、それぞれ20, 18, 16枚以下の葉は除去した。

結果及び考察

(1) 個体当たり葉分別収穫葉数(第1図)

4,230枚をとる場合(A)でも、5,652枚をとる場合(B)でも、栽植密度が低く、個体当たりの収穫葉数が多いほど土、中葉の産出枚数が多く、本、天葉の産出が少なか

第1図 個体当たり葉分別収穫葉数

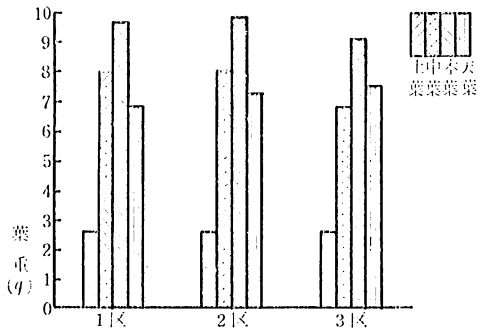


つた。特にBではこの傾向が明瞭であり、4区の土・中葉産出割合64.9%に対し、本・天葉35.1%となり、5区では63.5%と36.5%、6区では54.7%に対し、45.3%の比率となつた。

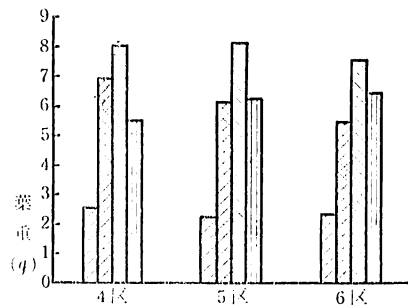
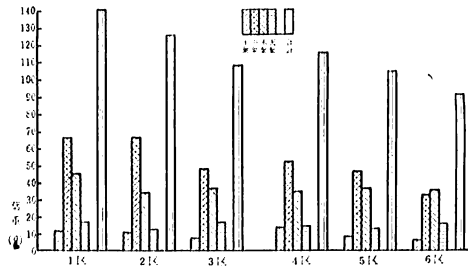
(2) 1枚当たり葉分別平均葉重(第2図) 個体当たりの収穫葉数を減らし、栽植本数を増加すれば、天葉の1枚当たり葉分別平均葉重は増すが、土・中・本葉ではやや減少した。個体の1枚当たり平均葉重は密度が低く、収穫葉数が多いほど増し、AはBより増加した。

(3) 個体当たり葉分別葉重(第3図) 個体の収穫葉数を減らし、密度を増せば、個体当たりの葉分別葉重は各区とも土・中葉は減少し、本・天葉はやや増加の傾向がみられた。個体の平均葉重は栽植密度の増加につれて減少した。しかし4区(B)は3区(A)より個体の葉重が高い

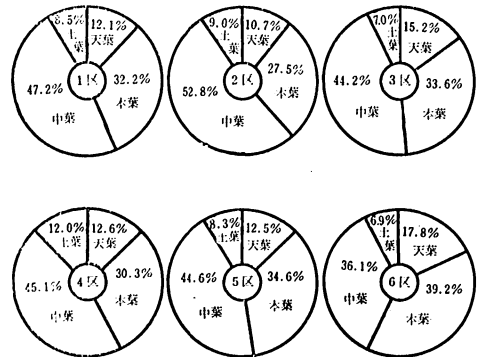
第2図 一枚当たり葉分別平均葉重



第3図 個体当たり葉分別葉重



第4図 単位面積(10a) 当り葉重の葉分歩合



のは、個体の収穫葉数の多少による影響が栽植密度の増加より強いことに起因するものと考えられる。

(4) 単位面積(10a)当り葉重の葉分歩合(第4図)

個体当りの収穫葉数を減らし、単位面積当りの栽植本数を増せば、土・中葉では漸次低くなり、木・天葉では高く、特に5,652枚をとる区(II)は顕著であった。

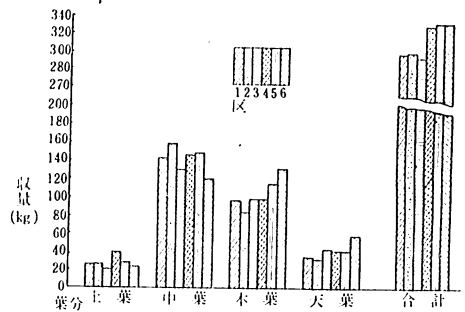
(5) 単位面積(10a)当り収量(第5図) これを葉分別

の収量構成についてみれば、4230枚をとる区(A)は単位面積当り収量は同じでも、栽植密度の高い区は全収量に対して、木・天葉のウェイトが高く、栽植密度の低い区は中葉のウェイトが高くなっている。つぎに単位面積当りの収穫葉数を増加した区(B)でも同じ傾向が認められ、前者に対しての収量増は栽植密度の低い区では土・中葉でおぎない、密度の高い区では木・天葉でおぎなわれている。

む す び

摘心の程度は浅止が、収量確保と品質に妥当な方法であり、また栽植密度の増加は顕著に収量が増大し、

第5図 単位面積(10a) 当り収量



品質はやや低下することを報告(25, 26号)した。この両者を組み合わせた結果は栽植密度を増すことが、収量の増加に主要な因子としてあらわれた。しかし収穫葉数設方法ならびに品種の差違と、それに伴う生産構造、内容成分、品質等についてはさらに検討する余地がある。